

努力と結果が 結びつく仕事です

安彦 陽平

Abiko Yohei

【出身中学校】

鮭川村立大豊中学校
(現)鮭川中学校

高校/電気系
専門学校/コンピューター関係

鮭川村出身。専門学校では、ネットワークエンジニアの技術を学ぶ。卒業後、アルバイトを経て、実家の(有)安彦園芸の社員。

岸 友郁

Kishi Tomoka

【出身中学校】

新庄市立明倫中学校

高校/農業
専修学校/農業

新庄市出身。山形県立農業大学校(現農林大学校)野菜・花き経営学科卒業。インターンシップでお世話になったつながりから、(有)安彦園芸に就職。

「日本で一番
使いたいバラ」と
プロに
認められる。



目標

陽平さん

家族の「帰ってこないか」の一言がきっかけかもしれません。

お花の栽培がすごく楽しくて。

仕事として私に向いているかもって(笑)

友郁さん

バラ栽培をする家族の姿を見て育った、安彦陽平さん。忙しそうなお様子から、農業とは異なる職業を考えていた時期もありましたが、家族の「帰ってこないか」の一言がきっかけとなり、バラ栽培の道へ。「本や現場で学んだことを実践し、失敗したこともありますが、努力が結果に結びついて。そしてもっと良くしたいと、次の学びにつなげる…そんな毎日にやりがいを感じています。」

陽平さんの目標は「日本で一番使いたいバラ」とプロに認められること。「誰かが、気持ちを伝えたい、空間や場面を演出したい、という想いをもって手にしてくれた私のバラ。そんなお客様の気持ちを最大限表現できるよう、より美しく咲かせたいといつも努力しています。」

お花屋さんへのあこがれから、高校ではフラワーアレンジメントの勉強をしたという岸友郁さん。ところが実際にやってみると、栽培する方が自分にはあっているのではと感じています。収穫と合わせ、お客様の元でより美しく咲かせるために、成長するバラを整えるなど、コツコツとお世話をする日々。「出荷前、収穫された見事なバラでバケツがいっぱいになると、本当にうれしいです。」

友郁さんの元気の源は、お休みの日のカフェやレストラン巡り。おしゃべりに夢中になりながらも、頭のどこかで気になるバラ…。「好きなことを思い続けることは、どんな形でもきっと仕事につながりますよ。」

安彦園芸のバラ



有限会社安彦園芸が
主に作っているもの



バラ(78.4a)

年間約28種のバラを栽培し、全国へ出荷しています。大きく、色鮮やかに、お客様の元で長く咲くバラを目指し、ハウスの環境を整えながら、日々努力と研究を続けています。

お二人にQuestion!

Q. 中学生の頃好きだった教科は何ですか?

陽平 体を動かすことが好きだったので、体育が得意でした。農業もきつと体が資本ですね。

友郁 国語です。古文や漢文を読むのが楽しくて、読書も好きでした。

Q. 今、お気に入りの品を教えてください

陽平 毎日の仕事に欠かせない黒のボールペン。シンプルですが、書きやすさ、使いやすさ重視のこだわりの品です。

友郁 ハウスではいつもラジオが流れていて、気になる曲はスマートフォンにダウンロードして聞いています。

お気に入り
毎日楽しく!

